

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第8回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成13年9月4日 (火) 13:30~17:00

2. 場所 日本原燃 (株) 大会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 小川 (副主査), 大江, 武部, 豊原, 本山, 山本, 吉田

(8名)

(代理出席委員) 石井 (苅込委員代理), 大間 (佐々木委員代理)

下田 (上田委員代理), 増井 (藤原幹事代理) (4名)

(欠席委員) 出光, 坂下, 馬原, 油井 (4名)

(常時参加者) 増田 (1名)

(事務局) 市園

4. 配付資料

F2SC8-1 第7回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC8-2 標準委員会の活動状況

F2SC8-3 標準原案「収着分配係数の測定方法—浅地層土壌等を対象にしたバッチ法 (案)」

参考資料「収着分配係数の測定法—浅地層土壌等を対象にしたバッチ法 (案)」

F2SC8-5 分配係数の測定法—バッチ法 (案) に対する原子燃料サイクル専門部会委員コメント

F2SC8-6 「分配係数の測定法」について (コメント)

F2SC8-7 分配係数の測定法—バッチ法 (案) に対する標準委員会委員コメント

F2SC8-8 解説に対するコメント

F2SC8-9 原案レビュー先一覧 (案)

F2SC8-10 スケジュール (案)

F2SC8-11 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

F2SC8-12 解説修正案 (油井委員より)

F2SC8-13 解説修正案 (豊原委員より)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 16名の委員中8名の委員と4名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い, 承認された。(F2SC8-1)

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況報告があった。更に, 森山主査及び武部委員より第6回原子燃料サイクル専門部会及び第9回標準委員会での中間報告における審議結果の報告があった。(F2SC8-2)

(4) 標準原案の審議

武部委員より前回分科会以降の分科会委員からのコメント, 原子燃料サイクル部会委員コメント及び標準委員会委員コメントの紹介と対応案の説明があった。主な意見を以下に示す。(F2SC8-3,5,6,7,8,12,13)

- 標準の名称は「収着分配係数の測定方法—浅地層土壌等を対象としたバッチ法」とする。
- 「—浅地層土壌等を対象としたバッチ法」の「等」は天然バリア, 人工バリアを含むことを意味している。また, 「浅地層処分」とすると安全評価の概念が出てくるため物質名とした。なお, 岩石は対象でないと考えている。
- 「核種移行媒体」という言い方もあるが, 現状のままをしたい。
- 実験水の記載方法を変更している。
- 語尾の「望ましい」は極力無くしている。
- 「しんとう」, 「かくはん」など漢字は常用漢字とする。
- pHなどは附属書1を引用する。
- 試料採取に関する測定項目を附属書1に追加した。
- 「5.2a」試料の分取」の第二文は「再現性を確認するためには同一条件で最低3個の試料による測定を行うこと。」とする。

(5) 原案のレビュー依頼について

最終的な原案とする前に, 分配係数に造詣が深い方々及び関係機関の方々にレビュー依頼を行うこととなった。(F2SC8-9)

(6) 参考資料の取扱いについて

事務局より第9回標準委員会にて、「参考資料の扱いについては、有用な資料であり、標準委員会のトピカルレポートとしても良いのではないか。」とのコメントがあったことが紹介され、2月の専門部会、標準委員会を目標に作業を進めることとなった。(F2SC8-4)

(7) 今後の予定

以下に示すスケジュールを確認した。なお、標準原案及び参考資料へのコメントについては武部委員へ送付することとなった。

- ・ 9/11 (火) 分科会委員コメント締切
- ・ 9/14 (金) 頃 対外レビュー用原案作成
- ・ 9/17 (月) 以降 レビュー先へ送付
- ・ 10月末 レビューコメント締切
- ・ 11月上旬～中旬 分科会 (最終案決議予定)
- ・ 12月中旬 原燃サイクル部会にて最終報告, 書面投票へ (予定)
- ・ 2月 標準委員会にて最終報告, 書面投票へ (予定)
- ・ 4月頃 公衆審査 (2ヶ月間) (予定)

以上